



「勉強は大切」でも・・・

校長 垣崎 晃

5月の風とともに爽やかな季節となりました。先月の保護者会では、お忙しい中ご来校いただきありがとうございます。家庭と学校がバラバラに努力していても教育の効果は上がりません。学力の向上は、学校での指導と家庭での指導が重なったとき、大きな力となっていくと考えます。

国立教育政策研究所が以前に行った調査では、興味深い結果が出ています。たとえば、「教科の勉強は大切か」という質問に対し、「大切だ」と答えた子どもは、小学生約9割、中学生が約8割という結果でしたが、「教科の勉強が好き」という子どもは小学生で約7割、中学生で約6割となっていました。

この結果から、「勉強は大切」と考えていても、目の前の勉強を好きになれない子どもたちがいることがわかります。このことから、学校でも家庭でも熱心に勉強ができないのではないかという状況がうかがえます。しかし、勉強をしない日が続いてしまうと、あるとき愕然とします。授業を聞いていても分からないからです。そして、小学校での基礎・基本が定着していないと、中学校の授業はさらにきつく感じます。でも、そう感じたときはかなり手遅れになった状態になっているわけです。

子どもたちの興味・関心を引き出すためにいろいろと指導の工夫をしていますが、ご家庭でも次の「学習のすすめ」を参考にいただき、子どもたちの学力向上にご協力いただければ幸いです。

〈家庭学習のすすめ〉

- ① 生活のリズムを身に付ける（朝食と睡眠をしっかりとる）
- ② コミュニケーションをとる（家族で話し合える雰囲気をつくる）
- ③ 家庭学習の習慣を身に付ける（学年×10～15分の習慣を身に付ける）
- ④ 読書の習慣を身に付ける（テレビ、ゲームより本に親しむ環境をつくる）
- ⑤ 自分の得意分野をつくる（その子なりのよさを伸ばす）